

船橋税務署長賞

税が日本を救う

船橋市立旭中学校

第二学年

太下 芽依

税。税は私たちの生活を支える柱だ。税と
言われても税について学ぶこの機会があるま
では正直、「税なんてなくてもいい。」「高すぎ
る。」と、よくわからないでいた。そして、税
と言われて頭に浮かぶものは全てマイナスの
考えだった。そんな悪いイメージになってし
まう原因。それは今なら分かる。きっと税が
私たちの生活を支えてくれていることに実感
がないからだ。また私たちの耳には増税、少
子高齢化による税の負担の拡大など、悪い情
報が多く入り、良い面が見えていないからだ。
これから税と付き合っていくためには、もっ
と国民が税について知っていかなければなら
ないと思う。

税とは、消費税、所得税、法人税などと
して私たちが納めることで国の収入となり、そ
の税金が公共サービスを行うための費用とし

て支出されている。そのため税は私たちが豊
かで安心した暮らしができるようにするため
使われている。例えば、病院、道路、町の電
気、交番、ごみの収集などだ。学校では私た
ち一人に年間約百万円が使われている。税が
なければ私たちの生活はとても不便になる。

そんな税の大切さを知ってもらうためには
どうすれば良いのか。私は三つ考えた。一つ
目は、小学校で税について学ぶ時間を設ける
こと。私たちが学んだのは中学生。しかし、
税を納める国民としてもっと早く学ぶべきだ
と思う。理解するのは難しいけれど、税が大
切だということは分かると思う。そして、学
んだ上で大切になることは身近に学んだこと
を感じる。ことだと私は思う。そのためには二
つ目、税金が使われている公共サービスに、
税金が使われていることが分かる表示をつけ
るべきだと考える。「このベンチは船橋市の税

が使われている。」そのことが分かるだけで税
に関心が湧く上に、税を払う意味を知ること
もできる。また、同じようなことを学べる方
法を三つ目として考えた。それは、ふるさと
納税のように、税を多く納めている人には目
に見えるものとして物を送るという制度を作
ることだ。○円以上の所得税を納めた人には
旅行券を送る。このようにすることでしっか
り納めた税が国で使われていると実感できる。
また、なぜ多く働くだけで納める税が増える
のかという疑問もなくなると思う。少なくとも
私たちが中二はその疑問を抱えている。だか
らこそ税を納めたことで物が送られることは
いいと思う。

これからの税の課題は知ってもらうことだ。
税について知ってもらうことで今後の税との
つき合い方も変わっていく。あれだけたくさ
んの良いところをもつ税を知らないのはもっ
たいないと思う。そのため税を身近に感じる
工夫をし、私たちの生活をより豊かにしてい
く必要がある。学び、知っていくことで分か
る。税は、「私たちの生活の柱」だということ
を。